

韓国人日本語学習者における日本語の「乗り物+で」と「乗り物+に乗って」の選択

杉 村 泰

1. はじめに

本稿は杉村（2023）で論じた中国人日本語学習者に引き続き、韓国人日本語学習者における日本語の「乗り物+で」と「乗り物+に乗って」の選択について論じるものである。中国語では乗り物に乗ることを表す場合に、自動車・飛行機・船などに客として乗る場合は“坐”、それを自分で運転・操縦する場合は“开”、自転車や馬などにまたがって乗る場合は“骑”を使う。これが連動文（動詞句+動詞句、日本語の「～して～する」に相当する）の前件に使われた場合は、例(1)や例(2)のように「乗り物+で」と訳すか、「乗り物+に乗って」と訳すかという問題が生じる。

- (1) a. 我每天骑自行车去学校。
 b. 私は毎日自転車 {で / に乗って} 学校に行きます。
- (2) a. 到火车站骑自行车用十五分钟左右。
 b. 駅まで自転車 {で / ?に乗って} 15分ぐらいです。

一方、韓国語では日本語の「乗る」に対応する「타다」や「で」に対応する「로」があるため、初級から日本語話者に近い選択ができると予想される。しかし、後述するように日本語と韓国語では必ずしも同じような選択率になるわけではなく、韓国人日本語学習者にとっても「で」と「に乗って」の選択が問題となる。以下、この点についてアンケートによる二者択一テストの結果を基に論じていく。

2. 先行研究

杉村（2021, 2022a, 2022b）では、日本語母語話者は多くの場合に「で」を選好するが、特殊な乗り物に乗る場合や移動の目的が特殊な場合には「に乗って」の選択率が上がることを指摘した。これに関しては、杉村（2023）でまとめておいたので本稿では省略する。

これを受け、杉村（2023）では日本語母語話者、中国人上級日本語学習者、中国人初級日

本語学習者の「で」と「に乗って」の選択を比較し、中国人日本語学習者は初級では日本人の選択率との差が大きくても、上級になれば大方の場合に日本人の選択率に近づくことを見た。ただし、「彼は電車（ ）家出した」のように非日常的なことを表す場合や、「宇宙人が円盤（ ）人間をさらっていった」のように乗り物を移動手段以外の道具として使う場合は、上級になっても日本人の選択率に近づかないことなどを指摘した。

3. アンケートの概要

本稿ではアンケートによる二者択一テストを利用して、日本語話者（日本人）と韓国語を母語とする日本語学習者（N1合格レベル、N2合格レベル、N3合格レベル）の「乗り物+で」と「乗り物+に乗って」の選択率¹⁾、を比較する。さらに対応する韓国語の「乗り物+로」と「乗り物+를 타고」の選択とも比較する。

〔被験者と調査時期〕

- ・日本語母語話者：名古屋大学の学生95人（2021年10月5日調査）
- ・韓国語を母語とする日本語学習者：慶尚大学校の学生（N1合格7人、N2合格12人、N3合格6人）（2022年11月9～16日調査）
- ・韓国語母語話者：慶尚大学校の学生41人（2022年11月14～24日調査）

調査項目と調査結果を表1に示す。これは日本人の「で」の選択率が高いものから順に並べたもので、網掛けした項目は所要時間を表すものである。なお、表1の韓国人日本語学習者の選択率は、N1合格レベルからN3合格レベルまでの25人の平均である。

表1 二者択一テストにおける「で/로」の選択率(%) (日本人の「で」の降順)

調査項目 (22問)	日本語		韓国語
	日本人	韓国人	韓国人
1. 彼はバス（で／に乗って）通勤する。 그는 버스（로 / 를 타고）통근한다.	98.9	75.6	85.4
2. 彼はタクシー（で／に乗って）通勤する。 그는 택시（로 / 를 타고）통근한다.	98.9	80.5	80.5
3. ここから駅まで自転車（で／に乗って）20分だ。 여기에서 역까지 자전거（로 / 를 타고）20분이다.	98.9	97.6	92.7
4. 彼は自家用車（で／に乗って）通勤する。 그는 자가용차（로 / 를 타고）통근한다.	96.8	92.7	82.9
5. ここから東京までバス（で／に乗って）2時間だ。 여기에서 도쿄까지 버스（로 / 를 타고）2시간이다.	95.8	87.8	97.6
6. 彼は飛行機（で／に乗って）ハワイに行った。 그는 비행기（로 / 를 타고）하와이에 갔다.	94.7	73.2	29.3

7. 彼は電車 (で／に乗って) 学校に通う。 그는 전철 (로 / 을 타고) 학교에 다닌다.	94.7	75.6	53.7
8. 彼は自転車 (で／に乗って) 学校に通う。 그는 자전거 (로 / 를 타고) 학교에 다닌다.	93.7	87.8	65.9
9. 彼は自転車 (で／に乗って) 公園に行った。 그는 자전거 (로 / 를 타고) 공원에 갔다.	90.5	58.5	39.0
10. 彼は電車 (で／に乗って) 買い物に行った。 그는 전철 (로 / 을 타고) 쇼핑하러 갔다.	88.4	41.5	19.5
11. 彼は電車 (で／に乗って) 旅に出た。 그는 전철 (로 / 을 타고) 여행을 떠났다.	85.3	43.9	22.0
12. 彼はタクシー (で／に乗って) 犯行現場に行った。 그는 택시 (로 / 를 타고) 범행현장에 갔다.	77.9	39.0	24.4
13. 宇宙人が円盤 (で／に乗って) 人間をさらっていった。 우주인이 원반 (으로 / 을 타고) 인간을 납치해갔다.	76.8	73.2	73.2
14. 彼はバイク (で／に乗って) 犯行現場に行った。 그는 오토바이 (로 / 를 타고) 범행현장에 갔다.	75.8	41.5	24.4
15. 彼は電車 (で／に乗って) 家出をした。 그는 전철 (로 / 을 타고) 가출을 했다.	71.6	43.9	34.1
16. 彼は駅からバス (で／に乗って) 通勤する。 그는 역에서 버스 (로 / 를 타고) 통근한다.	69.5	68.3	70.7
17. 彼は戦闘機 (で／に乗って) ハワイに行った。 그는 전투기 (로 / 를 타고) 하와이에 갔다.	56.8	51.2	34.1
18. 彼は馬 (で／に乗って) 学校に通う。 그는 말 (로 / 을 타고) 학교에 다닌다.	36.8	46.3	19.5
19. 宇宙人が円盤 (で／に乗って) 地球にやってきた。 우주인이 원반 (으로 / 을 타고) 지구에 왔다.	35.8	26.8	0
20. 彼は象 (で／に乗って) 学校に通う。 그는 코끼리 (로 / 를 타고) 학교에 다닌다.	29.5	39.0	9.8
21. 孫悟空が筋斗雲 (で／に乗って) やって来た。 손오공이 근두운 (으로 / 을 타고) 왔다.	29.5	41.5	9.8
22. 孫悟空が筋斗雲 (で／に乗って) 空を飛んでいる。 손오공이 근두운 (으로 / 을 타고) 하늘을 날고 있다.	21.1	17.1	22.0

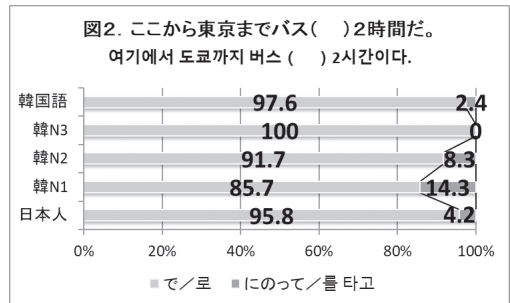
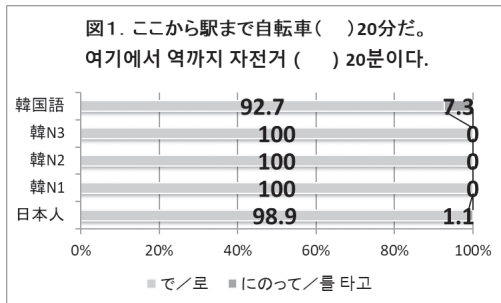
4. アンケート結果の考察

以下、関連する項目ごとにアンケート結果を見ていく。

4.1. 所要時間を表す場合

まず、所要時間を表す場合から見る。図1、図2のように、日本人の日本語（以下、単に日本語と言えば日本人の日本語を指す）ではほぼ100%「で」が選択され、韓国語でも90%以上「로」が選択されている。また、学習者の日本語でも全体的にほぼ100%「で」が選択されている。このことから、所要時間を表す場合は日本語でも韓国語でも「で / 로」を使うのが普通で、学習者も母語の正の転移によって「で」を選択していると考えられる。なお、学習者は

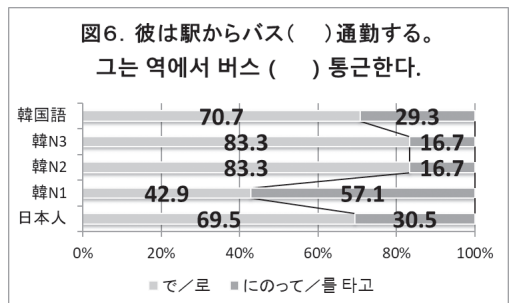
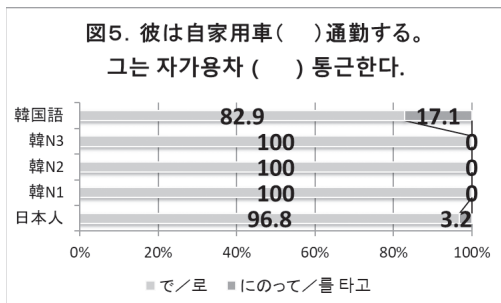
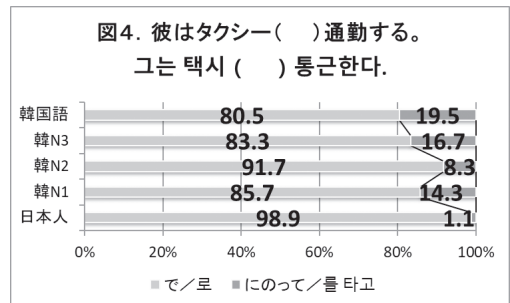
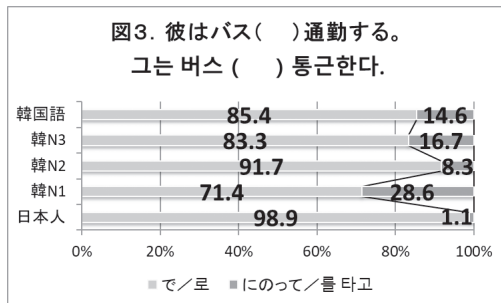
図2のN1で「に乗って」の選択率が14.3%とやや高くなっているが、今回の調査でN1は7人しかいなかったため、1人の影響が大きく出た可能性がある。



4.2. 通勤・通学の場合

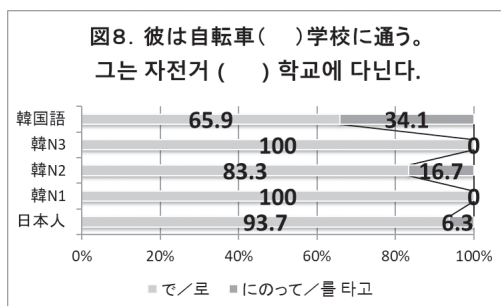
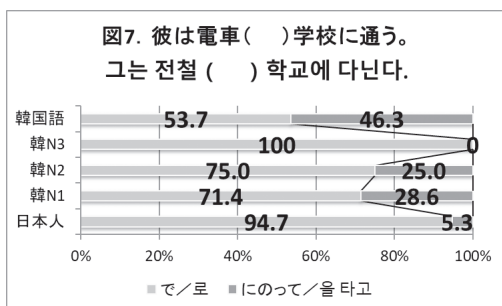
次に、通勤・通学の場合について見る。図3～図5は通勤手段が一つだけの場合である。この場合、日本語ではほぼ100%「で」が選択されているのに対し、韓国語では「로」の選択率が80%強と日本語より低くなっている。ここで学習者の選択率を見ると、バスやタクシーの場合は何どのレベルでも「를 타고」の選択率が母語である韓国語に近い数字で選択されているのに対し、自家用車の場合はどのレベルでも「를 타고」が選択されず、100%「로」が選択されている。この理由は現時点では不明である。

一方、図6のように家から駅までと駅から職場までを別の交通手段で移動する場合は、日本語でも韓国語でも「に乗って/를 타고」の選択率が約3割に上がっている。これは別の交



通手段に「乗り換える」というイメージが強くなるため、「乗る / 타다」が使いやすくなるのだと考えられる。この場合、学習者はN2, N3レベルでは図3、図4と同程度の選択率となっているが、N1レベルでは「를 타고」の選択率が57.1%とかなり高くなっている。この原因についても今後の課題とする。

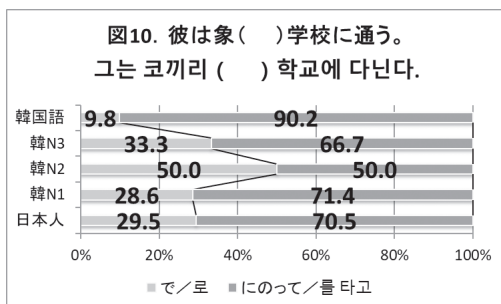
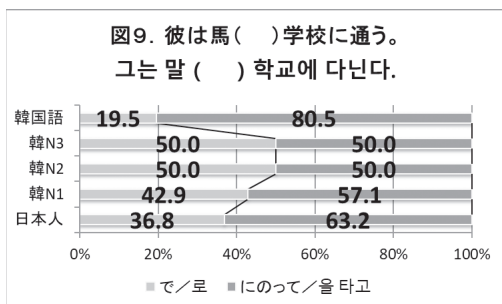
次の図7、図8は通学の場合である。この場合も日本語では90%以上「で」が選択されているのに対し、韓国語では「로」の選択率が53.7%、65.9%と日本語より低く、「를 타고」の割合が高くなっている。ここで学習者の選択率を見ると、いずれの場合も母語である韓国語に比べて「に乗って」の選択率が低くなっている。



以上のように、日常的な通勤・通学に使う交通手段を表す場合、日本語では「で」を選択する傾向がある。ただし、通勤・通学の途中で別の交通手段に変える場合は、乗車のイメージが強くなって「に乗って」の選択率が上がる。これに対し、韓国語では日本語に比べて「를 타고」の選択率が高くなっている。一方、学習者は図3、図6のN1を除き、母語である韓国語ほどは「를 타고」の選択率が高くなっておらず、日本人に近い選択率になっている。

4.3. 特殊な乗り物の場合

次に、特殊な乗り物の場合について見る。図9、図10は上の図7、図8と同じ通学の場合である。しかし、電車や自転車のような通常の交通手段ではなく、馬や象といった日本人や韓国人にとっては特殊な交通手段となっている。この場合、日本語では「で」の選択率が30%



前後と低くなり、韓国語でも10～20%と低くなっている。このことから、特殊な乗り物の場合は日本語でも韓国語でも「に乗って/를 타고」の選択率が高くなるが、韓国語の方がよりそれが顕著であることが分かる。ここで学習者の選択率を見ると、学習者も特殊な乗り物の場合には「に乗って」の選択率が高くなっている。ただし、どのレベルでも母語である韓国語より日本人に近い数字になっており、必ずしも母語の選択意識がそのまま転移されているわけではないことが分かる。

また、図11と図12はいずれも航空機を使う場合であるが、図11は一般的な飛行機であるのに対し、図12は戦闘機であるという違いがある。この場合、日本語では飛行機の場合はほぼ100%「で」が選択されているのに対し、戦闘機の場合は「で」の選択率が下がり、「に乗って」の選択率が相対的に高くなっている。これは馬や象の場合と同様に、戦闘機は特殊な乗り物であるためであると考えられる。これに対し、韓国語では飛行機でも戦闘機でも「로」と「를 타고」の割合はあまり変わらない。

一方、学習者の場合は、N1～N3のいずれにおいても、飛行機より戦闘機の方が「를 타고」の選択率が約15～25%高くなっている。ただし、飛行機の場合に「를 타고」が15～35%選択されており、ある程度母語である韓国語の負の転移が効いていると考えられる。

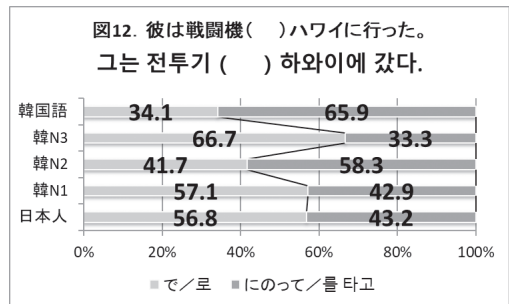
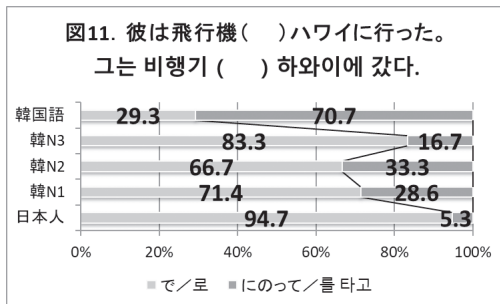


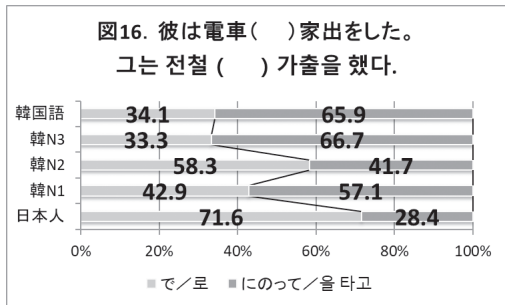
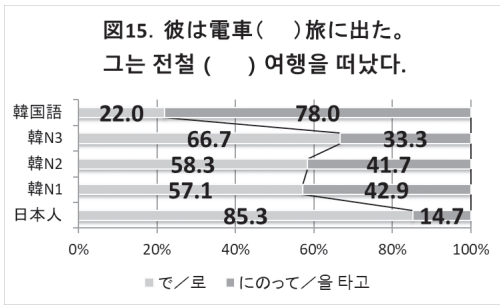
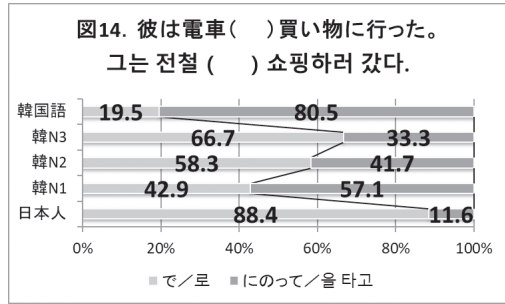
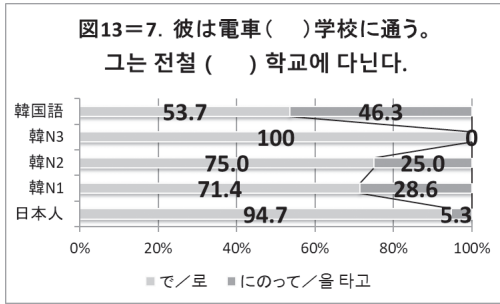
図11と図12の違いは乗り物の特殊性とも関わるが、日本語の場合は次のような移動目的の特殊性とも関わると思われる。すなわち図11のように通常の旅行や出張のイメージの場合は「で」の選択率が高くなり、図12のように特殊任務の場合は相対的に「に乗って」の選択率が高くなるのである。

4.4. 特殊な移動の場合

次に、特殊な移動の場合について見る。図13～図16はいずれも電車による移動を表す場合であるが、移動の目的が通学、買い物、旅、家出というように、日常的なものから臨時のものへと変わっている。この場合、日本語では全体的に「で」の選択率が高いが、日常性が薄れるにつれて少しずつ「に乗って」の選択率が高くなっている。これに対し、韓国語では通学、家出、旅、買い物の順に「를 타고」の選択率が高くなっており、日本語のような非日常性はあ

まり関係ないようである。また、韓国語では日本語に比べて全体的に「를 타고」の選択率が高くなっている。

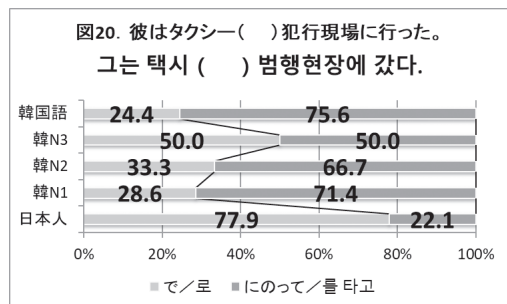
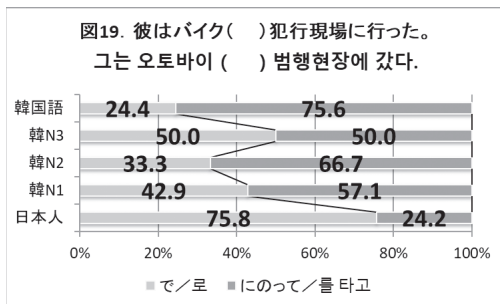
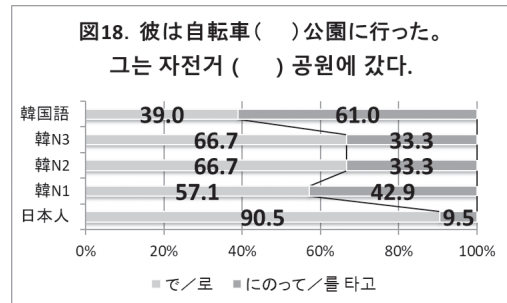
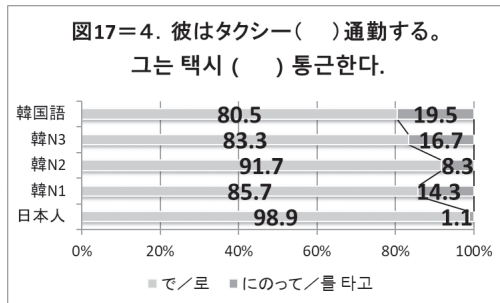
一方、学習者の場合は、母語である韓国語ほどではないが、図13のN3以外は日本人に比べて「に乗って」の選択率が高くなっており、ある程度母語である韓国語の負の転移が効いていると考えられる。



次の図17～図20も移動目的の違いを比べたものである。この場合も、日本語では通勤、公園への移動、犯行現場への移動というように日常性が薄れるほど「に乗って」の選択率が高くなっている。これに対し、韓国語ではいずれの場合も日本語に比べて「를 타고」の選択率が高く、特に通勤のような日常のルーティーン的な移動ではなく、公園への移動や犯行現場への移動のような個別の一回的な移動の場合に「를 타고」の選択率が高くなっている。

一方、学習者の場合は、母語である韓国語のように「に乗って」の選択率が高くなっており、母語である韓国語の負の転移が効いていると考えられる。その一方で、通勤、公園への移動、犯行現場への移動というように日常性が薄れるほど「に乗って」の選択率が高くなっており、この点で日本語に似た様相を呈している。

なお、図19と図20は、バイクよりタクシーで犯行現場へ行く方が特殊であり、「に乗って」の選択率が高くなると予想して調査項目を立てたものである。しかし、アンケートの結果を見ると、さほど違いが見られなかった。バイクやタクシーと、白バイやパトカーを比べれば、違いが見られたかもしれない。白バイやパトカーの方が犯行現場と馴染みやすいため、「で/로」の選択率が上がると予想される。

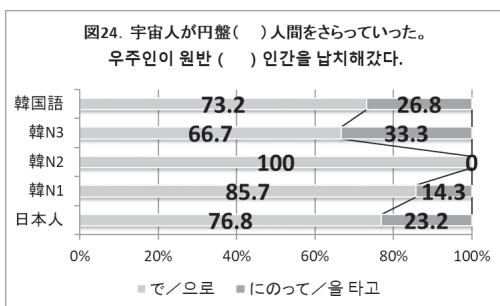
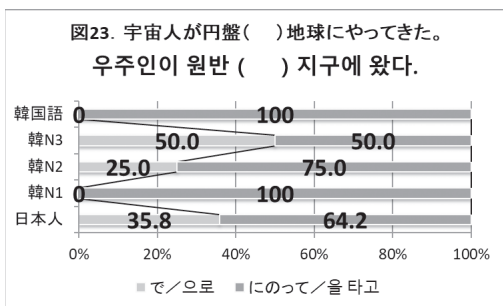
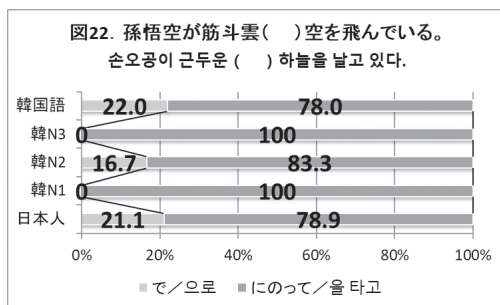
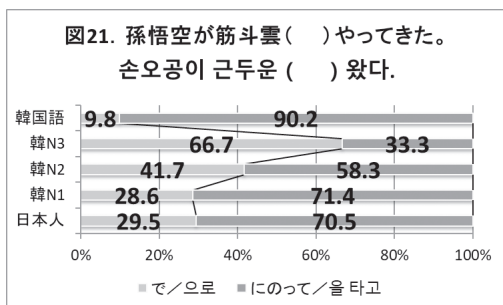


4.5. 道具のイメージの場合

最後に、乗り物に道具のイメージがある場合について見る。乗り物も道具といえば道具であるが、ここでいう道具というのは移動手段以外の用途として使う場合を指す。図21～図24はいずれも筋斗雲や円盤といった特殊な乗り物の場合である。そのため、図21～図23において日本語では「で」より「に乗って」の選択率の方が高くなっている。この場合、韓国語でも「로」より「를 타고」の選択率の方が高く、日本語と同等かそれ以上になっている。一方、学習者は図21の「やってきた」に比べて「空を飛んでいる」の方が「に乗って」の選択率が高くなっている。

一方、同じ特殊な乗り物の場合でも、図24の場合は日本語でも韓国語でも「で/로」の選択率が70%を超えており、他の3つに比べて高くなっている。この場合、学習者も「で」の選択率が高くなっている。これは文末の述語が図21～図23では「やってくる」、「空を飛ぶ」のように移動を表す表現であるのに対し、図24では「人間をさらう」のように取得を表すことに焦点を当てた表現であるためであると考えられる。この場合、円盤は単なる移動手段ではなく、誘拐の道具として使われているため、具格の「で/로」が選択されやすくなると考えられる。

この場合、杉村 (2023) で見た中国人日本語学習者は、初級でも上級でも「に乗って」が約60%選択されていた。このことから、中国人日本語学習者は特殊な乗り物の場合に「に乗って」を使いやすいということはイメージしやすいが、乗り物を道具として認識するかどうかは基準が漠然としていてイメージしにくいということを指摘した。これに対し、韓国人日本語学



習者は、中国人日本語学習者に比べて乗り物を道具として認識するかどうかという判断が利きやすいことが分かる。これは中国語では「で」も「に乗って」も同じ中国語で表されるのに対し、韓国語では「で」と「に乗って」に相当する「로」と「를 타고」の使い分けがあり、初級でも「で」と「に乗って」の違いを理解しやすいためであると考えられる。

5. まとめ

本稿ではアンケートによる二者択一テストを利用して、日本語母語話者と韓国語を母語とする日本語学習者 (N1合格レベル、N2合格レベル、N3合格レベル) の「で」と「に乗って」の選択と、対応する韓国語の「로」と「를 타고」の選択を比較した。その結果、次のことを指摘した。

- ・所要時間を表す場合は日本語でも韓国語でも「で/로」の選択率が高く、学習者も「で」の選択率が高い。
- ・日本語でも韓国語でも「電車」や「バス」のような一般的な交通手段より、「馬」や「象」のような特殊な移動手段の方が「に乗って/를 타고」の選択率が高くなる。この場合、学習者も同様であるが、母語である韓国語ほどは「に乗って」の選択率が高くなっていない。
- ・日本語でも韓国語でも「通勤」や「通学」のような一般的な移動より、「旅に出る」や「犯行現場に行く」のような特殊な移動の方が「に乗って/를 타고」の選択率が高くなる。こ

の場合、学習者も同様であるが、母語である韓国語ほどは「に乗って」の選択率が高くなっていない。

- ・日本語でも韓国語でも「円盤（ ）人をさらう」のように乗り物を移動手段以外の道具として捉えやすい場合は、「で/로」の選択率が高くなる。この場合、学習者も「で」の選択率が高くなる。
- ・中国人日本語学習者は全体的に初級より上級の方が日本人に近い選択率を示す（杉村2023）のに対し、韓国人日本語学習者はそのようなレベル差はあまりない。これは中国語では「で」も「に乗って」も同じ中国語で表されるのに対し、韓国語では「で」と「に乗って」に相当する「로」と「를 타고」の使い分けがあり、初級でも「で」と「に乗って」の違いを理解しやすいためであると考えられる。
- ・韓国人日本語学習者は必ずしも母語である韓国語の選択率に近いとは限らず、全体的にどのレベルでも日本人の選択率に近い傾向がある。

本稿では事実の指摘にとどめたところもいくつかある。今後は母語である韓国語との対照研究や韓国語話者以外のデータと比較することにより、さらに詳しく「で」と「に乗って」の使い分けや学習者の選択要因を明らかにしていきたい。

付記：本稿は2022-2026（令和4-8）年度科学研究費基金（基盤研究（C））「中国人日本語学習者の「視点」習得に関する縦断的研究とオンライン教材開発」（研究代表者：杉村泰、課題番号22K00636）による研究成果の一部である。

注

- 1) この場合の選択率は、各被験者群における「で」（または「に乗って」）の選択者数の割合を百分率で示したものを指す。

引用文献

- 杉村泰（2021）「「坐、騎、乗、开」の日本語訳について」『中文日訳の基礎的研究』三、日中言語文化出版社、pp. 40-48
- 杉村泰（2022a）「日本語の「〔乗り物〕で」と「〔乗り物〕に乗って」の選択について」『東アジア日本学研究』第7号、東アジア日本学研究学会、pp. 43-50
- 杉村泰（2022b）「關於漢語“坐+車”，“開+車”的日譯」『第二屆名古屋大學／屏東大學文學交流暨論文發表會論文集』、名古屋大學人文学研究科・國立屏東大學中國語文學系、pp. 3-10
- 杉村泰（2023）「中国人日本語学習者における日本語の「乗り物+で」と「乗り物+に乗って」の選択」『名古屋大学人文学研究論集』第6号、名古屋大学人文学研究科、pp. 23-39

キーワード：日本語学習者、「で」、「に乗って」、「로」、「를 타고」

摘要

关于以韩语为母语的日语学习者在日语「交通工具+で」和「交通工具+に乗って」之间的选择问题

杉村 泰

本文采用调查问卷的方式，将问题设置成二选一的选择题，以日语母语者、韩国高级日语学习者(N1, N2, N3)的日语、韩语为母语者的韩语为调查对象，对三者在「乗り物+で」と「乗り物+に乗って」之间的选择上进行了比较研究。研究结果表明如下。

- ・在表示所需时间的情况下，无论日语还是韩语对于「で / 로」的选择率都较高，学习者对于「で」的选择率也很高。
- ・无论日语还是韩语，相比较使用一般的交通工具，例如“电车”或“公共汽车”，使用特殊的交通工具，例如“马”或“大象”时，更倾向于使用「に乗って / 를 타고」。在这种情况下，学习者的选择趋势也是一样的，但是与韩语母语者相比，他们对于「に乗って」的选择率则没有那么多高。
- ・无论日语还是韩语，与一般的“通勤”或“上学”等日常移动方式相比，例如像“旅行”或“前往犯罪现场”这样特殊的移动方式更倾向于选择使用「に乗って / 를 타고」。在这种情况下，学习者的选择趋势也是一样，但是与韩语母语者相比，他们对于「に乗って」的选择率则没有那么多高。
- ・无论日语还是韩语，如果像「円盤 () 人をさらう」这样将交通工具视为除移动工具之外的工具时，使用「で / 로」的选择率会变高。在这种情况下，学习者的选择趋势也更倾向于「で」。
- ・根据杉村(2023)的研究结果显示，中国人日语学习者整体而言、与初级水平的学习者相比，高级水平的学习者的选择率更接近于日本人。但是与此相对，韩国人日语学习者则没有这种水平差异。这是因为在汉语中，「で」和「に乗って」都用相同的汉字表示。而在韩语中，「로」和「를 타고」分别对应于「で」和「に乗って」的用法，即使在初级水平也相对容易理解「で」和「に乗って」之间的区别。
- ・韩国人日语学习者不一定总是接近韩语母语者的选择率，无论处于何种习得水平上，总体而言，他们的选择都倾向于接近日本人的选择率。

关键词：日语学习者，「で」，「に乗って」，「로」，「를 타고」